

研究開発の概要

(1) 研究開発の概要

関西創価高校がSGHを通して生徒に身につけさせたい力は、国連の提起する地球的課題について探究し、世界の平和に貢献するグローバルリーダーとしての「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」である。Active Learningの土台の上に、全校生徒を対象とした「環境・開発・人権・平和」の4分野について学ぶ探究型総合学習GRIT(Global Research and Inquiry Time)やGlobal Citizenship Seminar、希望者を対象とした知的好奇心を高揚させる高大連携プログラムのUP(University Partnership)Class、希望者から選抜された生徒がオールイングリッシュで徹底した探究を行うLC(Learning Cluster)で、確かな知識と広い教養の涵養を目指す「世界市民教育」の教育課程を研究開発する。

(【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要を参照)

(2) 本年度の研究開発の経緯

SGHAより取り組んできたGRITプログラムの完成年度を迎えた。1年次は「グローバルイシューとの出会い」をテーマに、知識のインプットとディスカッションを中心としたプログラム、2年次は「グローバルイシューとの戦い」をテーマに、「環境・開発・人権・平和」の4分野からトピックを選んで探究活動を行い、それぞれのチームが大学教授に探究成果と提言を発表、3年次は「世界を一つにする力」をテーマに、合意形成の力を培った。その集大成として、3年生全員、92ヶ国で取り組んだ模擬国連では「飢餓の終息に向けた農業分野での国際協力」について総会を開催。採択された二つの決議を元国連事務次長のチョウドリ大使に提出、全員が探究したことを論文にまとめ、英語サマリーとして発信した。各教科においても、93%の教員がアクティブラーニングを中心とした課題研究型の学習方法を取り入れた。語学への挑戦の気風も高まり、英検合格者数において飛躍的に大きな伸びを示した。高大連携、国際機関とも提携して、地球の今を学び、体験し、問題解決へ発信する新教育プログラムを作り上げることを目指した。国内・海外のフィールドワーク先の充実、提携先の開拓なども行った。生徒意識調査を行い、生徒の基本情報を把握、今年度の取り組みの分析及び次年度以降の取り組みの方向性の検討を実施した。

(3) 本年度の具体的な取り組み内容

①GRIT

- ・アクティブラーニングを中心に、本校SGHのテーマである「環境・開発・人権・平和」4分野について全校生徒で探究し、3学期に生徒による成果発表会を行う。

②Global Citizenship Seminar

- ・国内外の国際機関や大学等の学術機関、社会で活躍する著名人から直接講演を受講。

③LC(Learning Cluster)

- ・希望者から選抜し、オールイングリッシュによる探究・調査・提言作成を行う。

④SP(Soka Progress)classならびにUP(University Partnership)Class

- ・希望者を対象にした高大連携プログラム国内外の大学教授などから受講。

⑤FW(Field Work 東京・広島・アメリカ・東北)

⑥NIE(Newspaper in Education)